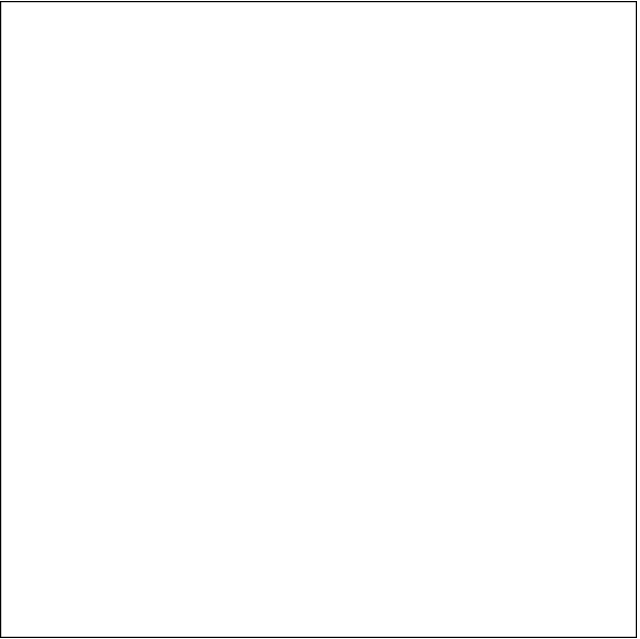




(utan bilder)

Ghanaian folktale ✎
Wiehan de Jager 🗣️
japanska 🗣️
|| nivå 3



アフリカ知庫



Sagor för barn på svenska

berattelser.se

アフリカ知庫

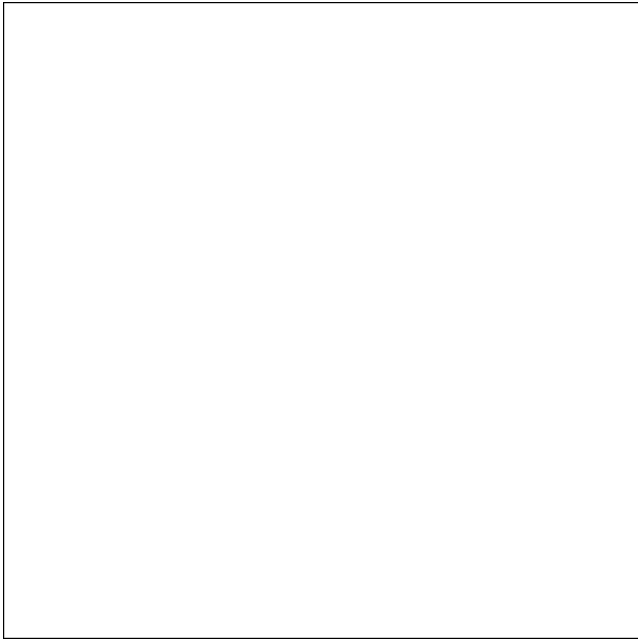
Skriven av: Ghanaian folktale
Illustrerad av: Wiehan de Jager
Översatt av: Kohei Tsuji

Denna saga kommer från African Storybook (africanstorybook.org) och vidarebefordras av Sagor för barn på svenska (<https://berattelser.se/>), som erbjuder sagor på många språk som talas i Sverige.

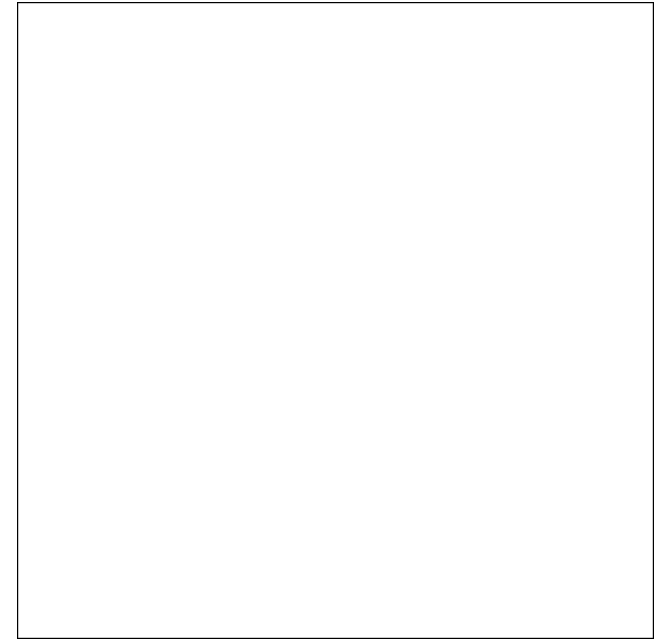
Detta verk är licensierat under en Creative Commons

[Erkännande 3.0 Internasjonal Licens.](https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv)

<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv>

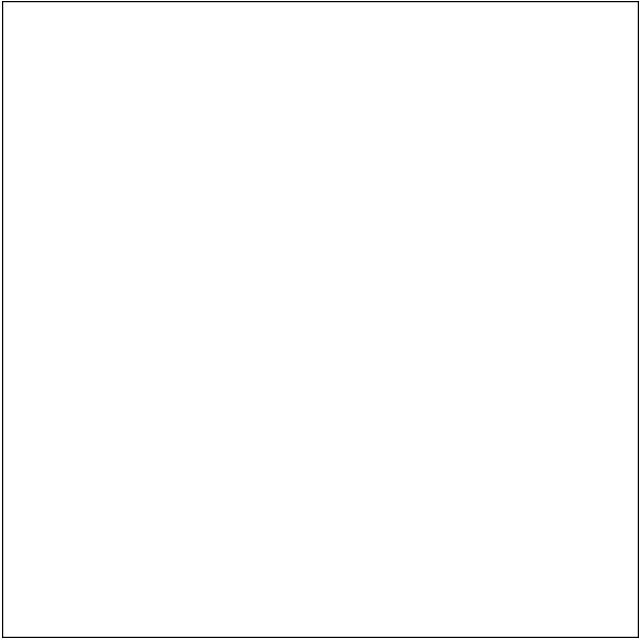


昔々、人々は何も知らなかった。彼らは農作物の植え方も、服の縫い方も鉄の道具も作る方法も知らなかった。空に住んでいた神ニヤメが世界のすべての知恵を持っていた。彼はそれを安全に粘土の壺にしまっていた。

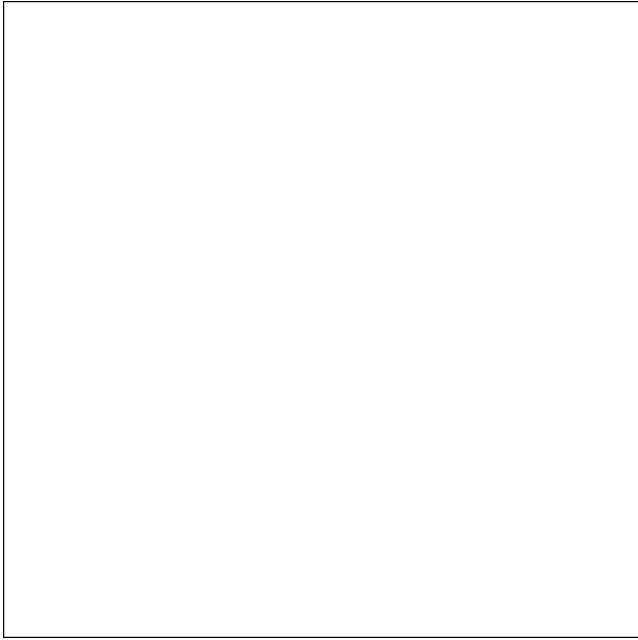


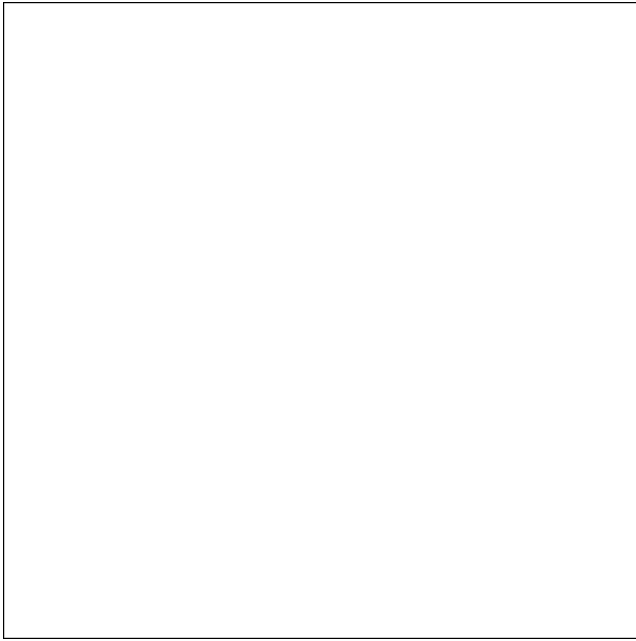
壺は壊れて地面にバラバラに割れた。その知恵はみんなに自由に共有された。そうやって人々は農業や服の作り方や、鉄製の道具の作り方、そして他の知恵も学ぶことができた。

ある日、ニヤメは壺の知恵をフナシシにあげることにした。毎回フナシシは壺を覗き込み、何か新しいものを学んだ。彼はそれを楽しんだ。

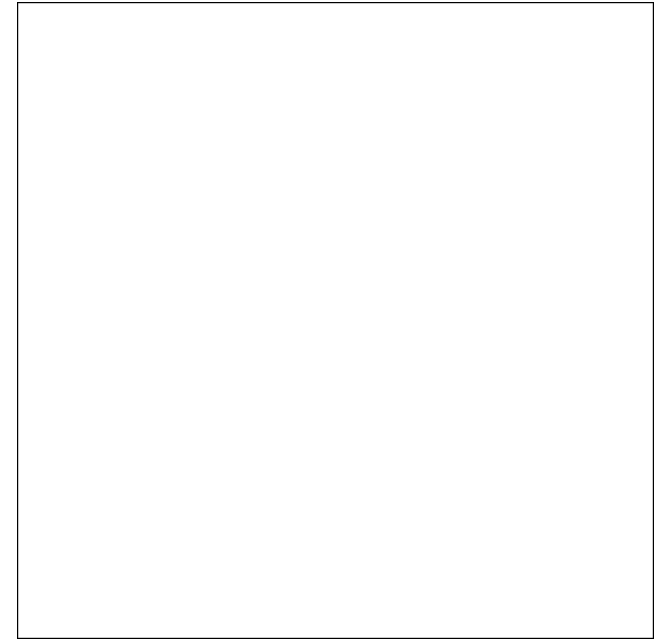


すぐに木の頂上に着いた。しかしそこで彼は止まり考えた、僕はすべての知恵を持っていると思っていたが、自分の息子の方が賢いじゃないか! フナシシはこのことについて怒って、壺を木からほうり投げた。





強欲なアナンシは思った、高い木の上に壺を置いておけば安全だ。そして独り占めすることができると！彼は壺を長い紐でお腹に巻いた。木を登り始めた。しかしずっと膝の間で壺が跳ねて木を登ることは難しかった。



ずっとアナンシの若い息子は木の下で木を見ながら立っていた。そして彼はお腹の代わりに背中に壺を結んだ方が簡単ではないか？と言った。アナンシは背中に結び登った。それはとても簡単なことだった。